



作家  
元国際線乗務員  
**黒木安馬**

【プロフィール】高校時に米国留学後、早稲田大学を経てJAL国際線客室乗務員として30年勤務。世界初の「カラオケ・フライト」や「1万メートル上空・北島三郎機上コンサート」などを実現させる。千葉の自宅は1300坪の山林を開墾してプール、テニスコート、コンサートホール等を手作りする。現在、(株)日本成功学会社長として自己啓発や社員教育で講演中。著書に「ファーストクラスの心配り」、「あなたの人格以上は売れない!」(プレジデント社)、「成「幸」学」(講談社)、「出過ぎる杭は打ちにくい!」(サンマーク出版)、「面白くなくちゃ人生じゃない!」(ロングセラーズ)、「小説・球磨川」(上下巻・ワニブックス)などがある。  
E-mail:yasuma@myad.jp URL:http://www.7b.biglobe.ne.jp/~sanpercent-club/

21世紀だ! ————— 人生・農業リセット再出発 218

## いいスギ!? 日本の救世主あらわれる!

**全**国どこも花粉症の杉林だらけだが、丸太を満載したトラックも地方駅近くの製材所も見かなくなってきた。林業で生計を立てるのは難しく後継者不足で廃業も多く、山は廃れている。50年育てた杉も建築材ではなく間伐材と一緒にチップにしてバイオマス燃料になる現実がある。杉は柔らかく強度が低く、水分が多くて乾燥後の収縮・反り返りがあり寸法安定性が悪い。杉は日本固有の針葉樹で、朝鮮半島や中国大陸にはない。

カナダのシュナイダー博士がある技術を発明した。トウモロコシ、サトウキビの絞りカスから抽出した天然素材「フルフリル・アルコール」は人畜無害で、木材に浸透させ乾燥してフラン樹脂を生成させると、腐らずに硬度も増して反りも無くなる。濃い茶色に木目も残して艶やかに変化して硬くて重厚なチーク風の銘木材になり、手触りもしっとり木質もそのまま残って硬度は3倍になる。メンテナンス不要で、塗装や接着もできる。強度が劇的に増して腐朽や摩耗に強く、防腐剤も不要という夢の技術、それをノルウェーのケボニー社が実用化した。

だが使えるのは、ラジアータパインや欧州赤松、メイプルなどの3種類に限られる。

ケボニー化材は欧州でデッキやビルの外装・内装、波洗う海岸壁にも使われ、家具や食器まで広く使われ始め、大学寮として9階建てのビルが5棟も並んで建てられているが、すべてが木造の高層建築で外壁も室内壁も美しい木肌のままである。木材だけで高層ビル建造、それも北欧の厳しい寒さや気候の耐久性問題をケボニー加工技術で、難なく可能にしている。2015年に世界22カ国で販売され、17年ベルギーに第二工場が稼働開始、生産は毎年37%も伸びている。

家具に使う材木は、木肌が美しく硬度の高いマホガニーやローズウッドなど熱帯でしか育たない広葉樹天然材のハードウッドだが、生育に50年も

かかり、密輸も横行するなど手に入りやすく高額である。毎年スコットランドと同じ面積の熱帯雨林が地球上から消滅している。柔らかいソフトウッズの杉など針葉樹材は植林・造林で資源量は安定しているが、家具や床材の内装材、野外の外構材に使われるハードウッドは枯渇している。チーク・マホガニーに代わる持続生産可能な木材、口に入れても安心安全でオーガニックな加工木材、美しい表情のままメンテナンスフリーな素材の誕生、それをケボニーは可能にした。

**岡**山県津山市にある輸入建材商、ケボニー化材日本輸入総代理店、バルセロナ・トレードの小原富治雄さんは、この技術を日本固有種の杉に応用できないかと考え、京都府立大学、奈良県森林技術センターと組んで実験を行なった。杉の木は我が国には豊富にあるものの、前述の弱点がある。だが、この技術を応用すれば、弱点を補えるかもしれないとひらめいたのだ。

その結果、フルフリル・アルコールは見事に芯まで浸透して樹脂化した! 杉の木一本の丸太を丸々使える状態にまで変化したのだ。浸透にムラがあったら機能性にばらつきが出てくる。欧州赤松は表面しか浸透せず、ラジアータパインも辺材部分だけだから、我が国固有の杉の浸透性の良さは、思いがけず画期的な大発見になった。

杉のケボニー化が実用化したら、新素材としての杉材需要を爆発的に生み出すことになる。価格は、現在の杉製材と比べて約7倍になるから原木価格も上がる。処理を施した木材は30年間の品質保証が付き、しかも基本的にメンテナンスフリーで構わないそうだ。

我が国の杉の資源量は有り余るほどあるので、安定供給が可能。市場は世界中に広がっているから、日本林業が海外に羽ばたく日が来るのも夢ではない!

若者よ、今こそ、森へ向かえ!